

申請者名

株式会社計画情報研究所

体制図 【役割分担】

申請者	・・・企画・教材アレンジ・実施・経理・成果まとめ
-----	--------------------------

連携自治体	・・・会場確保・募集広報・関係機関調整
-------	---------------------

【講習会等の実施予定場所】

①中能登町生涯学習センター「ラピア鹿島」(写真左)

②古民家「みおやの里」(写真右)



※令和2年度デジタル活用支援員候補者研修時の風景

講習会等の実施計画

基本講座

	電源の入れ方等	電話のかけ方等	アプリ等	ネットの使い方等	メール等の使い方	地図アプリの使い方	SNSの使い方	オンライン会議	安心・安全
実施コマ数	12	12	24	12	12	12	24	12	24

応用講座

	マイナンバーカード	マイナポータル	マイナポイント	e-Tax	オンライン診療	地域オンライン行政
実施コマ数	12					

支援員数	アシスタント数	基本講座：実施コマ総数	応用講座：実施コマ総数
2	10	24	12

講師を確保・養成・管理

【講師の確保】

令和2年度中能登町デジタル活用支援員推進事業の支援員養成講師を担当した2名が担当予定。

①電気通信工事担任者(デジタル第一種)の資格を持つ元NTT職員。現在は総務省地域情報化アドバイザー、先端科学技術大学院大学URA、特定非営利活動法人北陸地域活性化推進協議会理事長等。

②建設部門「都市および地方計画」「道路」の技術士の資格を持つまちづくりプランナー。地方創生を担当。

【講師の養成】

執行団体主催の研修の受講により、スキルアップを行う。

【講師の管理】

最新情報で講習会等が実施できるよう、講師間の連絡・指示を密にし、適宜、振り返りなど行う。

講習会等の実施イメージ

※令和2年度デジタル活用支援員相談会の風景

①相談会型の講習会

高齢者向けにスマホ等の利用を講習するには、スクール形式などの授業方式では効果が薄い。気軽に聞きやすい、話しやすい相談会型とする。



②「体験」重視

講習だけでは、スマホの操作や便利さが伝わりにくく、好奇心や満足感が得られない。実際に触って、感動できる「体験」を重視する。



③少人数制

コロナ禍の感染症予防が最優先課題であり、大人数で三密の催しはリスクがあり、敬遠されてしまう。リモートでは実感が伝わらないため、少人数で三密を避けて行う。

